

本体の設置や接続、各部の名称などシステムのセットアップを始める前や運用時に知っておいていただきたい基本的なことがらについて説明しています。

設置(→10ページ)	.本体の設置手順について説明します。
各部の名称と機能(→20ページ)	.本体の各部の名称と機能についてパーツ単位に説 明しています。
接続について(→30ページ)	.本体にケーブルを接続する際の注意事項を記載し ます。
基本的な操作(→34ページ)	.電源のONやOFFの方法、およびフロッピーディ スクやCD-ROMのセット方法などについて説明 しています。



本体はEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い 合わせください。

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。



次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラック を設置したり、ラックに本体を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。

- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所(大気中に硫黄の蒸気が発生する環境下など)、薬品類の近く や薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコン セントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する 装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズ フィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。

ल-0 重要

ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温 度が各装置から発する熱によって上昇し、本体の動作保証温度(10℃~35℃)を超え、誤 動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないよう ラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。 本装置では、前面から吸気し、背面へ排気します。

ラックへの取り付け/ラックからの取り外し

本体をラックに取り付けます(取り外し手順についても説明しています)。 ここでは、NEC製のラックまたは他社製ラックへの取り付け手順について説明します。





取り付け部品の確認

装置に添付のネジ(M5ネジ、ネジ部の長さ10mm)を6本とコアナット(8個)を用意してください。



別売品のケーブルアームを取り付ける場合は、ケーブルアームに添付のネジ(1本)とコア ナット(1個)が必要です。

必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバとマイナスドライバです。

取り付け手順

本装置はNEC製および他社ラックに取り付けることができます。

次の手順で装置をラックへ取り付けます。

レールアセンブリの取り外し

本体に取り付けられているスライド式のレールを取り外します。

レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせてください。しばらくすると、「カ チッ」とロックされます。



本体左右の側面にあるレリーズレバーを押して、ロックを解除しながら本体から取り外 します。



レールアセンブリを取り外すと、本体はネジ止めされたインナーレールのみが取り付け られた状態になります。



レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のイン ナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。 複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したもの かがわかるように区別してください。

コアナットの取り付け

レールアセンブリを固定する位置に添付のコアナットを取り付けます。コアナットは ラックの前面(左右とも)に各2個、背面(左右とも)に各2個の合計8個取り付けます。

コアナットは「1U(ラックでの高さを表す単位)」の中に2個取り付けてください(NEC製の ラックでは、1U単位に丸い刻印があります)。1Uあたり、スロット(角穴)が3つありま す。3つのスロットのうち、上側の2つのスロットにコアナットを取り付けます。

コアナットはラックの内側から取り付けます。ラックの前面に取り付けたコアナット は、上側をレールアセンブリ前面の固定に使用し、下側は本体のセットスクリューの受 けとなります。背面のコアナットはレールアセンブリ背面の固定用として使われます。



コアナットはどちらか一方のクリップをラックの四角穴に引っかけて からマイナスドライバなどでもう一方のクリップを穴に引っかけま す。

チェック

ラックの前後、左右に取り付けたコアナットの高さが同じであることを確認してください。

N8143-53 ケーブルアームを取り付ける場合は、 ラック背面側の右側のフレームには3個のコアナット を取り付けてください(オプションのN8143-53 ケー ブルアームを取り付ける場合は、ケーブルアームに添 付の説明書を併せて参照してください)。



追加するコアナット(1個)はN8143-53 ケーブルアー ムの添付品です。

レールアセンブリの取り付け

 コアナットを取り付けた位置にレールア センブリ前後のフレームを合わせる。

コアナットとレールアセンブリのフレー ムでラックのフレームを挟むように配置 してください。



ラック内の他装置と隣接する位置に本 体を取り付ける際は、他装置と本体の 筐体が干渉しないように注意してレー ルアセンブリを取り付けてください。

チェック

レールアセンブリを固定する部分のフ レームがラックのフレームよりも手前 にあることを確認してください。

2. レールアセンブリを支えながら、レール

アセンブリの前面側をネジ(1本)で、背 面側をネジ(2本)でラックに固定する。



レールアセンブリが水平に取り付けら れていることを確認してください。

背面側は、ラックの奥行きとレールアセ ンプリの長さを調節してから固定しま す。





本体のセットスクリューの 受けに使用する



3. もう一方のレールアセンブリを手順1~2と同じ手順で取り付ける。



すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

- 本体の取り付け
 - 左右のレールアセンブリのスライドレー ルをロックされるまで引き出す。

- 2. 2人以上で本体の前面が手前になるよう にして持つ。
- 本体側面にあるインナーレールをスライ ドレールに差し込み、ラックへ押し込 む。

ラックへ押し込む途中でロックされま す。

 左右のレリーズレバーを押しながら再 度、ラックへ押し込む。

チェック

ラック内の他装置と隣接する位置に本 体を取り付ける際は、他装置と本体の 筐体が干渉していないことを確認して ください。もし干渉している場合は、 他装置と干渉しないよう調整してレー ルアセンプリを取り付け直してくださ い。

スライド部分の機構がなじんでいない ため、少し抵抗感を感じますが、強く 押し込んでください。何度か引き出 し・押し込み動作をしているとスムー ズにスライドするようになります。



本体の固定

- 1. 本体をラックへ完全に押し込む。
- 前面の左右にあるセットスクリューで ラックに固定する。



3. フロントベゼルを取り付ける。





以上で完了です。

取り外し手順

次の手順で装置をラックから取り外します。



- 1. 本体の電源がOFFになっていることを確認してから、本体に接続している電源コードやインタフェースケーブルをすべて取り外す。
- 2. フロントベゼルを取り外す。



 本体の左右にあるセットスクリューをゆ るめる。

ハードウェアの取り扱いと操作

 本体をゆっくりと静かにラックから引き 出す。

引き出している途中でロックされます。

ਰਾ

装置を引き出した状態で、引き出した 装置の上部から荷重をかけないでくだ さい。装置が落下するおそれがあり、 危険です。

- 5. 左右のロックレバーを押してロックを解除しながらゆっくりとラックから引き出す。
- 本体をしっかりと持ってラックから取り 外す。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取 り付け手順」を参照して取り外してください。



各部の名称と機能

本装置の各部の名称を次に示します。

本体前面



① フロントベゼル

日常の運用時に前面のデバイス類を保護するカバー。添付のセ キュリティキーでロックすることができる(→34ページ)。

- ② キースロット フロントベゼルのロックを解除するセキュリティキーの差 しロ(→34ページ)。
- ③ POWER/SLEEPランプ(緑色)
 電源をONにすると緑色に点灯する(→25ページ)。
- ④ STATUSランプ(前面)(緑色/アンバー色) 本体の状態を表示するランプ(→25ページ)。正常に動作している間は緑色に点灯する。異常が起きるとアンバー色/赤色に点灯または点滅する。

⑤ DISK ACCESSランプ(緑色/アンバー色)

内蔵のハードディスクにアクセスしているときに緑色に点 灯する。内蔵のハードディスクのうち、いずれか1つでも 故障するとアンバー色に点灯する(→27ページ)。

6 ACTランプ(緑色)

システムがネットワークと接続されているときに点灯する (→27ページ)。アイコンにある数字は「1」がLANポート1 用で、「2」がLANポート2用を示す。

UIDランプ(青色)

UIDスイッチを押したときに点灯する(ソフトウェアから のコマンドによっても点灯または点滅する→27ページ)。

本体前面 - フロントベゼルを取り外した状態 -



- ① セットスクリュー(左右に1個ずつ)
 - 本体をラックに固定するネジ。
- ② ハンドル(左右に1個ずつ)

ラックからの引き出しやラックへ収納するときに持つ部分。

③ CD-ROMドライブ

CD-ROMの読み出しを行う装置(→39ページ)。

- ③-1 ディスクアクセスランプ
- ③-2 CDトレーイジェクトボタン
- ③-3 エマージェンシーホール

④ ハードディスクベイ

最大3台まで搭載可能(→151ページ)。丸数字のあとの数 字はSCSI IDを示す。標準構成では④-2にダミースポンジ が搭載されている。

⑤ DISKランプ(緑色/アンバー色)

ハードディスクにあるランプ(→28ページ)。ハードディス クにアクセスしているときに緑色に点灯する。ハードディ スクが故障するとアンバー色に点灯し、リビルド中は緑色 とアンバー色に交互に点滅する(ディスクアレイ構成時の み)。

⑥ 3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチフロッピーディスクを挿入してデータの書き込 み/読み出しを行う装置(→37ページ)。

- ⑥-1 ディスクアクセスランプ
- ⑥-2 ディスク挿入口
- ⑥-3 イジェクトボタン

⑦ 前面シリアルポート2コネクタ

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する(→30ペー ジ)。標準の状態では、誤挿入防止のためのキャップが取り 付けられている。

⑧ POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ(→35ページ)。一度押すと POWER/SLEEPランプが点灯し、ONの状態になる。もう 一度押すと電源をOFFにする。4秒以上押し続けると強制 的に電源をOFFにする(→35ページ)。

⑨ UID(ユニットID)スイッチ

装置前面/背面にあるUIDランプをON/OFFするスイッチ。 スイッチを一度押すと、UIDランプが点灯し、もう一度押 すと消灯する(→36ページ)。

本体背面



- ① Low-profile PCIボード増設用スロット オプションのPCIボードを取り付けるスロット(→161 ページ)。Low-profile(ロープロファイル)専用スロッ ト。PCIスロット番号は「1C」。
- ② SCSIコネクタ
 外付けのSCSI機器と接続する(→30ページ)。

③ LANコネクタ

LAN上のネットワークシステムと接続する1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応のEthernetコネクタ (→30ページ)。丸数字の後の数字は「1」がLANポート1 で、「2」がLANポート2を示す。

LANボート1に接続したコネクタを抜くときは、コ ネクタのツメが手では押しにくくなっているため、 マイナスドライバなどを使用してツメを押して抜い てください。その際に、マイナスドライバなどが LANボートやその他のボートを破損しないよう十分 に注意してください。

④ LINK/ACTランプ(緑色)

LANのアクセス状態を示すランプ(→29ページ)。

- ⑤ Speedランプ(アンバー色) LANの転送速度を示すランプ(→29ページ)。
- ⑥ 背面シリアルポート2コネクタ

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する(→30ペー ジ)。接続する装置により、本体の設定を変更をする必要 がある(→32ページ)。標準の状態では、誤挿入防止のた めのキャップが取り付けられている。

なお、専用回線に直接接続することもできません。



③の「LANコネクタ」と⑥の「シリアルポート2コネクタ」は、同じ形状のコネクタです。 ケーブルを差し間違えないよう注意してください。

⑦ Full-hight PCIボード増設用スロット

オプションのPCIボードを取り付けるスロット(→161ペー ジ)。Full-height(フルハイト)のボード用スロット。PCIス ロット番号は「1B」。

⑧ POSTランプ

ボード上に搭載されているランプ。電源ON後のPOST中に 点灯する。

⑨ コンソールリダイレクションスイッチ

コンソールリダイレクションの有効無効を設定するスイッ チ。LANコンソールとシリアルコンソールを共に有効に設定 した状態でHyper Terminalなど、MWA以外のソフトウェア でシリアルポート2を介したリモートコンソールで本装置と 通信する場合にONにする。

① STATUSランプ(背面)(緑色/アンバー色)

本体の状態を表示するランプ(→25ページ)。正常に動作し ている間は緑色に点灯する。異常が起きるとアンバー色に点 灯または点滅する。

UIDランプ(青色)

UIDスイッチを押したときに点灯する(ソフトウェアからの コマンドによっても点灯する、→36ページ)。

① ACインレット

電源コードを接続するソケット(→30ページ)。

本体内部

装置上面のカバーを取り外した状態です(出荷時の状態では、両側面にレールアセンブリが 取り付けられています)。



- ① CD-ROMドライブ
- ② フロントパネルLEDボード
- ③ SCSIバックプレーン
- ④ パワージャンパポード
- ⑤ 冷却ファン(本体前面から見て、左から FAN 1、FAN 2、FAN 3、FAN 4)
- ⑥ 電源ユニット
- ⑦ ライザーカード(フルハイトのボード用)
- (8) プロセッサ(CPU、ヒートシンクの下に取 り付けられている)

- 9 DIMM(Slot #1Aと#1Bに2枚標準装備)
- 10 マザーボード
- ライザーカード(ロープロファイルのボー ド専用)
- 12 カバーオープンセンサ
- (13) フロントパネルボード
- ⑭ フロッピーディスクドライブ
- 15 ハードディスクベイ

マザーボード



- 内蔵SCSIコネクタ(内蔵用ハード ディスクとの中継用コネクタ)
- ② PCIライザーカード用コネクタ (ロープロファイルのボード専 用、100MHz/64-bit・3.3V PCI)
- ③ DIMM(インターリーブタイプ用) ソケット(図の上のソケットから 順番に#3A、#3B、#2A、#2B、 #1A、#1B)
- ④ プロセッサ(CPU)ソケット
 ④-1 プロセッサ#1(CPU#1)
 ④-2 プロセッサ#2(CPU#2)
- ⑤ プロセッサ電源コネクタ

- ⑥ システムファンコネクタ
- ⑦ メインパワーコネクタ
- 電源信号用コネクタ
- (9) リチウム電池
- フロントシリアルポートコネクタ
 フロントシリアルポートコネクタ
- ① フロッピー/CD-ROMドライブ/フロン トパネルコネクタ
- ¹ コンフィグレーションジャンパスイッ
 f (→199ページ)
- (1) PCIライザーカード用コネクタ(フルハイトのボード用、100MHz/64-bit・3.3V PCI-X)

- アクセスランプ用コネクタ(増設 SCSI/ディスクアレイコントローラ のLED中継ケーブル接続用)
- 15 スピーカ
- (1) シリアルポート仕様切替用ジャンパ ピン(→32ページ)



本体のランプの表示とその意味は次のとおりです。

POWER/SLEEPランプ(学/))

本体の電源がONの間、緑色に点灯しています。電源が本体に供給されていないときは消灯 します。

STATUSランプ(A)

本体が正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します(STATUSランプは背面にもあります)。STATUSランプが消灯しているときや、アンバー色に点灯/点滅しているときは本体になんらかの異常が起きたことを示します。

次にSTATUSランプの表示の状態とその意味、対処方法を示します。



- ESMPROまたはオフライン保守ユーティリティをインストールしておくとエラーログ を参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制電源OFFをするか(35ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

STATUSランプの状態	意味	対処方法	
緑色に点灯	正常に動作しています。	-	
緑色に点滅	 メモリかCPUが縮退した状態で 動作しています。 メモリ1ビットエラーが多発して います。 	BIOSセットアップユーティリティ 「SETUP」を使って縮退しているデバイス を確認後、早急に交換することをお勧めし ます。	
消灯	電源がOFFになっている。	ー しばらくお待ちください。POSTを完了 後、しばらくすると緑色に点灯します。	
	POST中である。		
	CPUでエラーが発生した。	いったん電源をOFFにして、電源をONにし 直してください。POSTの画面で何らかの	
	CPU温度の異常を検出した。 (Thermal-Trip)	ロシンプを採取し終わるまでお待ちください。	
	ウォッチドッグタイマタイムアウトが 発生した。		
	CPUバスエラーが発生した。		
	メモリダンプリクエスト中。		
アンバー色に点灯	温度異常を検出した。	内部のファンにホコリやチリが付着してい ないかどうか確認してください。また、 ファンユニットが確実に接続されているこ とを確認してください。 それでも表示が変わらない場合は、保守サ ービス会社に連絡してください。 保守サービス会社に連絡してください。	
	電圧異常を検出した。		
	電源ユニットが故障した。		
アンバー色に点滅	ファンアラームを検出した。	ファンユニットが確実に接続されているこ とを確認してください。それでも表示が変 わらない場合は、場合は、保守サービス会 社に連絡してください。	
	温度警告を検出した。	内部のファンにホコリやチリが付着してい ないかどうか確認してください。また、 ファンユニットが確実に接続されているこ とを確認してください。 それでも表示が変わらない場合は、保守サ ービス会社に連絡してください。	

DISK ACCESSランプ()

DISK ACCESSランプはハードディスクベイに取り付けられているハードディスクの状態を示します。

ハードディスクにアクセスするたびにランプは緑色に点灯します。 DISK ACCESSランプがアンバー色に点灯している場合は、ハードディスクに障害が起きた ことを示します。故障したハードディスクの状態はそれぞれのハードディスクにあるランプ で確認できます。

■ 内蔵ディスクアレイコントローラを取り付け、本体内蔵ディスクと接続した場合、ディスク 「「「」、アレイコントローラからマザーボードへアクセスランプ信号ケーブル(装置に内蔵)を接続 する必要があります。

ACTランプ(器)

本体がLANに接続されているときに緑色に点灯し、LANを介してアクセスされているとき (パケットの送受信を行っているとき)に点滅します。アイコンの隣にある数字は背面のネッ トワークポートの番号を示します。

UIDランプ(UID)

このランプは1台のラックに複数台の装置を設置しているときに、装置前面にあるUIDスイッチを押すと、装置前面および背面のUIDランプが青色に点灯し、保守をしようとしている装置を特定することができます。UIDランプを消灯させるにはUIDスイッチを再度、押してください。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブのディスクアクセスランプは、それぞれに セットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

ハードディスクのランプ

ハードディスクベイに搭載されるDISKランプは表示状態によって意味が異なります。

緑色に点滅

ハードディスクにアクセスしていることを示しま す。

アンバー色に点灯

ディスクアレイを構成しているときに取り付けているハードディスクが故障していることを示します。



ディスクアレイ(RAID5)を構成している場合は、1台のハードディスクが故障しても運用を続けることができますが早急にディスクを交換して、再構築(リビルド)を行うことをお勧めします(ディスクの交換はホットスワップで行えます)。

● 緑色とアンバー色に交互に点滅

ハードディスクの再構築(リビルド)中であることを示します(故障ではありません)。 ディスクアレイ構成で、故障したハードディスクを交換すると自動的にデータのリビル ドを行います(オートリビルド機能)。リビルド中はランプが緑色とアンバー色に交互に 点灯します。

リビルドを終了するとランプは消灯します。リビルドに失敗するとランプがアンバー色 に点灯します。

■● リビルド中に本体の電源をOFFにすると、リビルドは中断されます。再起動してから
 ■● ハードディスクをホットスワップで取り付け直してリビルドをやり直してください。ただし、オートリビルド機能を使用するときは次の注意事項を守ってください。

- 電源をOFFにしないでください(いったん電源をOFFにするとオートリビルドは起動しません)。
- ハードディスクの取り外し/取り付けの間隔は90秒以上あけてください。
- 他にリビルド中のハードディスクが存在する場合は、ハードディスクの交換は行わないでください。

LANコネクタのランプ

背面にある2つのLANポート(コネクタ)にはそれぞれ2つのランプがあります。



LINK/ACTランプ

本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本体とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている間、緑色に点灯します(LINK)。ネットワークポートが送受信を行っているときに緑色に点滅します(ACT)。

LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルの状態やケーブルの 接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク (LAN)コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守 サービス会社に連絡してください。

Speedランプ

このランプは、ネットワークポートの通信モードがどのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。

LANポートは、1000BASE-Tと100BASE-TX、10BASE-Tをサポートしています。

アンバー色に点灯しているときは、1000BASE-Tで動作されていることを示します。緑 色に点灯しているときは、100BASE-TXで動作されていることを示します。消灯してい るときは、10BASE-Tで動作されていることを示します。

POSTランプ

POSTの状態を表す4つのランプがマザーボード上にあります。これらのランプは本体背面 のスリット部分から見ることができます。電源をONにした後、起動するPOSTがいつまで 経っても終わらなかったり、ビープ音が何度もなったりしている場合は、画面上のメッセー ジやビープ音のパターンと併せてランプの表示パターンをメモしてから、保守サービス会社 に連絡してください。



本体と周辺装置を接続します。

本体の前面と背面には、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次ページの図は 本体が標準の状態で接続できる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付 の電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。



無停電電源装置や自動電源制御装置への接続やタイムスケジュール運転の設定、などシステム構成に関する要求がございましたら、保守サービス会社の保守員(またはシステムエンジニア)にお知らせください。







チェック

接続しようとしているケーブルを確認してください。本装置のLANコネクタ(2個)とシリア ルポート2コネクタは、同じ形状をしています。ケーブルを差し間違えないよう注意してく ださい。

誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANポート」と書 かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。



- NEC以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本体で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本体で使用できないものがあります。
- 本装置のLANコネクタとシリアルボート2コネクタは、同じ形状をしています。ケーブルを差し間違えないよう注意してください。
 誤挿入を防止するために、本装置に接続するLANケーブルのコネクタに「LANボート」と書かれたタグなどを付けて見分けられるようにしてください。
- SCSIの規格によってケーブル長(SCSI機器内部の接続ケーブル長を含めたケーブルの 全長)には制限があります。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお 問い合わせください(本体内部のSCSIケーブル長は0.1mです)。
- 接続するモデムは、NECの「COMSTARZ MULTI560」をご使用になることをお勧め します。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- 電源コードやインタフェースケーブルをケーブルタイでケーブルがからまないよう固定してください。
- ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングして ください。
- LANポート1がeth1、LANポート2がeth0としてOSに認識されます。オプション LANボードはeth2としてOSに認識されます。

シリアルポートへの接続について

本体の前面ならびに背面にあるRJ-45シリアルポートは、さまざまなシリアルデバイスを接続することができますが、デバイスによっては、DCD/DSR信号の仕様によりマザーボード上のジャンパピン(J5A2)の設定を変える必要があります。

ジャンパピン(J5A2)は次に示す図の場所にあります。カバーの取り外しやその他の内蔵部 品の取り外しについては、6章を参照してください。



接続するシリアルデバイスがDB9コネクタの場合は、RJ-45-DB9変換アダプタが必要になります。以下に本装置のRJ-45コネクタと使用するDB9コネクタの配線を表に示します。

RJ-45	信号名	略語	DB9
1	Request to Send	RTS	7
2	Data Terminal Ready	DTR	4
3	Transmitted Data	TD	3
4	Signal Ground	SGND	5
5	Ring Indicator	RI	9
6	Received Data	RD	2
7	DCD/DSR	DCD/DSR	1または6
8	Clear To Send	CTS	8

無停電電源装置(UPS)への接続について

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続する場合は、UPSの背面にあるサービスコンセントに接続します。

UPSのサービスコンセントには、「SWITCH OUT」と「UN-SWITCH OUT」という2種類のコ ンセントがあります(「OUTPUT1」、 「OUTPUT2」と呼ぶ場合もあります)。

UPSを制御するアプリケーション(ESMPRO/ UPSControllerなど)から電源の制御をしたい場 合は、SWITCH OUTに電源コードを接続しま す。

常時給電させたい場合は、UN-SWITCH OUTに 電源コードを接続します(24時間稼働させるモ デムなどはこのコンセントに接続します)。



本装置の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSからの電源供給と連動(リンク)させるために本体のBIOSの設定を変更してください。

BIOSの「Server」ー「AC-Link」を選択すると表示されるパラメータを切り替えることで設定することができます。詳しくは190ページを参照してください。

基本的な操作

本体の基本的な操作の方法について説明します。

フロントベゼルの取り付け・取り外し

本体の電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブを取り扱うとき、 ハードディスクベイへのハードディスクの取り付け/取り外しを行うときはフロントベゼル を取り外します。



フロントベゼルは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができませ
 ん。

 キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーをフロントベゼル側に軽く押しながら 回してロックを解除する。



- 2. フロントベゼルの右端を軽く持って手前 に引く。
- フロントベゼルを左に少しスライドさせ てタブをフレームから外して本体から取 り外す。



フロントベゼルを取り付けるときは、フロン トベゼルの左端のタブを本体のフレームに 引っかけるようにしながら取り付けます。取 り付けた後はセキュリティのためにもキーで ロックしてください。



POWERスイッチ - 電源のON/OFF/再起動 -

本体の電源は前面にあるPOWERスイッチを押すとONの状態になります。 次の順序で電源をONにします。

マザーボード上にある本体を監視する「サーバーマネージメント論理回路|は、システム電 圧の変化を監視し、ログをとっています。電源コードを接続した後や、電源をOFFにした ヒント 後は、電源がOFFの状態からPOWERスイッチを押すまでに約10秒ほどの時間をあけてくだ さい。これは、通常の動作であり、サーバマネージメント論理回路が要求するものです。

- 1. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしていないことを確認する。
- 2. フロントベゼルを取り外す。
- 本体前面にあるPOWERスイッチを押す。
 POWERランプが緑色に点灯します。
 - **∏**-O iiig
 - ACインレットに電源コードを接続した後、POWERスイッチを押すまで10秒以上の時間 をあけてください。
 - POWERスイッチを押してから約30秒以内の間は電源をOFFにしないでください。

POWER/SLEEPランプ



POWERスイッチ

電源ONの後、自己診断プログラム(POST)を実行してハードウェアを診断しています。POSTを 完了するとシステムが起動します。システムの起動後はManagement Console本体の設定や管理 ができます。4章をご覧ください。

本体の電源のOFFやリセット(再起動)はManagement Consoleを使用します。4章を参照してください。Management Consoleから電源をOFFできないときは本体のPOWERスイッチを4秒以上押し続けてください(強制電源OFF)。

UIDスイッチ - 本体の確認 -

複数の本体を1つのラックに搭載している場合、保守をしようとしている装置がどれである かを見分けるために装置の前面および背面には「UID(ユニットID)ランプ」がもうけられてい ます。

前面にあるUID(ユニットID)スイッチを押すとUIDランプが点灯します。もう一度押すとランプは消灯します。

ラック背面からの保守は、暗く、狭い中での作業となり、正常に動作している本体の電源や インタフェースケーブルを取り外したりするおそれがあります。UIDスイッチを使って保守 する本体を確認してから作業をすることをお勧めします。





フロッピーディスクドライブ

本体前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し(リード)・保存(ライト)を行うこ とのできる3.5インチフロッピーディスクドライブが搭載されています。 本体では3.5インチの2HDフロッピーディスク(1.44Mバイト)と2DDフロッピーディスク (720Kバイト)を使用することができます。

フロッピーディスクのセット/取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本体の電源がON (POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がし

て、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。

イジェクトボタンを押すとセットしたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブか ら取り出せます。



- フォーマットされていないフロッピーディスクをセットすると、ディスクの内容を読めないことを知らせるメッセージやフォーマットを要求するメッセージが表示されます。 OSに添付のマニュアルを参照してフロッピーディスクをフォーマットしてください。
 - フロッピーディスクをセットした後に本体の電源をONにしたり、再起動するとフロッ ピーディスクから起動します。フロッピーディスク内にシステムがないと起動できません。
 - フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディ スクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊される おそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクは、データを保存する大切なものです。またその構造は非常にデリケートにできていますので、次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッタを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。

- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。
- フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消 すことのないようにライトプロテクト(書き込み禁止) ができるようになっています。ライトプロテクトされ ているフロッピーディスクは、読み出しはできます が、ディスクのフォーマットやデータの書き込みがで きません。重要なデータの入っているフロッピーディ スクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしてお くようお勧めします。3.5インチフロッピーディスクの ライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテク トスイッチで行います。



 フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によって データが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障など によってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切 なデータは定期的にバックアップをとっておくことをお勧めします。(本体に添付されて いるフロッピーディスクは必ずバックアップをとってください。)

CD-ROMドライブ

本体前面にCD-ROMドライブがあります。CD-ROMドライブはCD-ROM(読み出し専用のコンパクトディスク)のデータを読むための装置です。CD-ROMはフロッピーディスクと比較して、大量のデータを高速に読み出すことができます。



CD-ROMのセット/取り出し

CD-ROMは次の手順でセットします。

- 1. CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする前に本体の電源がON(POWER/SLEEPランプが緑色 に点灯)になっていることを確認する。
- 2. CD-ROMドライブ前面のCDトレーイジェクトボタンを押す。

トレーが少し出てきます。

- トレーを軽く持って手前に引き出し、トレーが止まるまで引き出す。
- CD-ROMの文字が印刷されている面を上 にしてトレーの上に静かに、確実に置 く。





る。

6. トレーの前面を軽く押して元に戻す。

5. 右図のように片方の手でトレーを持ちな

がら、もう一方の手でトレーの中心にあるローター部分にCD-ROMの穴がはまるように指で押して、トレーにセットす

CD-ROMの取り出しは、CD-ROMをセットするときと同じようにCDトレーイジェクトボタンを押してトレーを引き出します。

アクセスランプが点灯しているときはCDにアクセ スしていることを示します。CDトレーイジェクト ボタンを押す前にアクセスランプが点灯していない ことを確認してください。

右図のように、片方の手でトレーを持ち、もう一方 の手でトレーの中心にあるローター部分を押さえな がらCD-ROMの端を軽くつまみ上げるようにして トレーから取り出します。

CD-ROMを取り出したらトレーを元に戻してくだ さい。

取り出せなくなったときの方法

CDトレーイジェクトボタンを押してもCD-ROMが本体から取り出せない場合は、次の手順に従ってCD-ROMを取り出します。

1. POWERスイッチを押して本体の電源をOFF(POWER/SLEEPランプ消灯)にする。







2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のビン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる)をCD-ROM前面右側にあるエマージェンシーホールに差し込んで、トレーが出てくるまでゆっくりと押す。

|∎−0 重要

- つま楊枝やプラスチックなど折れ やすいものを使用しないでください。
- 上記の手順を行ってもCD-ROMが 取り出せない場合は、保守サービ ス会社に連絡してください。
- 3. トレーを持って引き出す。
- 4. CD-ROMを取り出す。
- 5. トレーを押して元に戻す。

CD-ROMの取り扱いについて

本体にセットするCD-ROMは次の点に注意して取り扱ってください。

- 本装置は、CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきまして は、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
- CD-ROMを落とさないでください。
- CD-ROMの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- CD-ROMにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接CD-ROMに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、 ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、 ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。



~Memo~